

やまゆり

学校だより

令和5年7月21日
32号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」

成長を実感できた1学期 「終業式」をしました

本日、1学期の終業式を行いました。28名の生徒が大きな事故や怪我もなく、安全に1学期を終了出来ました。また、各学年代表の生徒の言葉からも、体験を通して個人や集団が大きく成長できた1学期であったことを確認できました。成果や課題も明確になり、夏休みや2学期への決意も感じられました。保護者や地域の皆様には、三者懇談をはじめ、様々な場面で本校の教育を理解し、ご協力いただいたことに感謝致します。ありがとうございました。

1学年代表 山口 ^{ゆう}優さん

校外学習を通して相談し、協力して楽しく学べた。学年としては、主体性が課題であることが明確になり、努力して成果を感じた。夏休みは、目標を適え、家族との時間を大切にしたい。

2学年代表 池谷 ^{かこ}圭胡さん

1学期を通して「仲良し集団」から、お互いに「高め合うために協働できる集団」になってきた。特に宿泊学習で目標を達成するために成長できた。目標を適える充実した夏休みにしたい。

3年生代表 佐藤 ^{まさや}雅也さん

リーダーとしての責任の重さを学んだ1学期だった。リーダーとしての経験があまりなかったが、3年生として全員がリーダーになり、戸惑いながらも努力できた。疲れても努力を継続したい。

学年代表の3名



節目を理解し、しっかりした態度の生徒



校

歌ピアノ演奏 山口桜愛さん



教頭先生の話聞く生徒



三浦生徒指導主事



「表彰式」をしました

都留支部総合体育大会 卓球の部 男子 個人3位 山口 嶺さん
女子 個人3位 佐藤 紗名さん



1学期の成長の場面

生徒会執行部の活躍



全校集会の場面での1年生の主体的な発言＝上級生の良さ



生徒会長の景己さんの感激



生徒会執行は、合同朝の会・帰りの会、1学期の振り返り集会、学園祭の準備等で、生徒の話し合いを重視しています。
特に発言者の固定を打破するために、なるべく緊張や不安が無いように上級生が配慮して取り組んでいます。
左の写真は1年生がその気持ちに応え、勇気を持って発言したことに對し、生徒会長の景己さんが感激した場面です。

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」・「豊かな心の育成」

思春期の悩み相談への本校の対応

いじめ・不登校・学力の向上・進学・友人関係・家庭環境・SNS・心身の健康等、中学生は心も体も大きく成長する時期であり、不安や悩みを持ちながら生活しています。しかし、小規模校のために友人関係が濃密で気軽に友人と相談できない状況もあります。

一人で悩み、対応出来ない状態になる前に、相談しながら悩みや不安を改善することが重要です。今後は、32日間の夏休みも始まります。一人で様々なことにチャレンジできる半面、困難に躓くことも予想されます。そこで、日頃の本校の相談体制と夏休み中の相談方法等についても説明致します。気軽にご活用下さい。※ 5のクロムブックを活用した相談を特にご活用下さい。

本校の相談体制の説明・紹介

1 毎日の生活ノート(フォーサイト)の活用

生徒は帰りの会で毎日、1日の振り返りや帰宅後の学習計画を立てています。悩みや相談事を文字で表現することもできます。また、文字で表現出来なくても、「困った顔にチェック」を入れると、学年職員が相談体制に入ります。

この仕組みは、現在の生徒会役員がいじめ等の早期発見に生かして欲しいという要望で実現したものです。

2 「きずなの日」の活用

山梨県教育委員会では、毎月の第一と第三月曜日に「きずなの日」を設定しています。本校では、この施策を積極的に活用し、「全校生徒との相談日」として活用しています。相談希望のある生徒だけでなく、全校生徒との相談を出来るのは小規模校のメリットです。しかも、学年職員だけでなく全職員に相談が可能です。校長や教頭の管理職にも相談してくる生徒もいます。

学習や友人関係、進路相談、家庭のこと、身体の事など様々な相談実績があります。校長には、「下級生の発言を積極的に促すための相談」、「生徒会活動を活性化させる」相談など、より良い学校づくりのための相談もありました。

3 スクール・カウンセラー(村松先生)の活用

山梨県の義務教育課より定められた時間が本校は74時間です。その時間の中で、生徒や保護者の相談希望をとり、対応しています。緊急の場合は、富士・東部教育事務所から義務教育

課に連絡して対応することもできます。時間制限がありますが、本校では最大限活用しています。スクール・カウンセラーは「臨床心理士」等の資格を持つ専門家です。

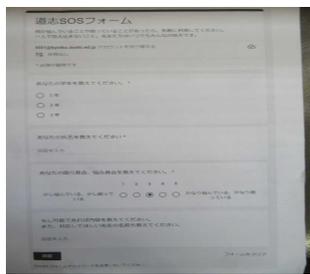
※ 杉本も教育カウンセラーの資格をもち、相談に生かしています。

4 スクール・ソーシャルワーカー(富士・東部教育事務所 飯塚先生)の活用

スクール・ソーシャルワーカーは、生徒の悩み・保護者の悩みに応じて本人の助言や様々な専門家につながることもできる専門家です。スクール・ソーシャルワーカーを活用している学校は少なく、しかも重大な事案になる前に積極的に活用していることを評価していただいています。

本校では、生徒や保護者も活用しています。

5 生徒の学習端末(クロムブック)を活用した相談



本校では、日常や土日、長期休業にも活用できるように生徒の学習端末を活用した相談が出来る体制を取っています。

家庭から希望の先生に相談すると、相談相手の教職員に連絡が入るように設定して、休業中の学習の悩みや突発的な事案にも対応出来るようにしています。

6 WEBQUの活用(信頼性と妥当性の高い標準化検査)を年3回実施

標準化検査を年3回活用し、開発した早稲田大学の河村研究室の先生が年に複数回、指導に来校し、学年職員が相談できる体制を取っています。全国的にも優れた体制です。

7 教職員の観察・面接・情報共有体制

日常の生徒の様子を複数の教職員が観察・面接し、週一回代表者会議で共有・対応しています。

8 教育委員会・小学校・児童相談所・住民健康課・校医・富士・東部教育事務所等との連携

教育関係者では、判断がつかないことや対応が難しい場合、他機関と積極的に連携して、適切な対応が出来る体制を取っています。

9 相談機関の積極的な紹介 学校通信 「7月6日号 26号」等を参照して下さい

眠れない・怒りやすくなった・口数が減った・食欲がない・不安を感じる・引きこもりがち

1 いのちのSOS (NPO法人 自殺対策支援センターライフリンク)

電話 0120-061-338

月・木 0時～24時(24時間) 火～水/金～日 8時～24時

